NATORI

NATORI・MASHIKI×KOBE VOLUNTEER REPORT 2018

4/28▸10/6

平成 30 年度
学生災害ボランティア・ネットワーク事業
報告書

ひょうごボランタリープラザ・神戸市社会福祉協議会・
日本財団学生ボランティアセンター・大学コンソーシアムひょうご神戸

3つの“つ”

つた
伝える

つな
繋がる

つづ
続ける

MASHIKI

平成 30 年度 **学生災害ボランティア・ネットワーク事業** 2018/4/28～10/6

ひょうごボランタリープラザ・神戸市社会福祉協議会・日本財団学生ボランティアセンター・大学コンソーシアムひょうご神戸

全体目標

一歩踏み出す！
感じ得るボランティア！
未だ見ぬ自分を！

各班の目標

すまいりーず … 笑顔 ～笑顔をうつそう！～
からしれんこん … 笑顔で笑顔に
くまっしょい … 住民さんと " 一緒に " 交流し、コミュニケーションを図る
ひゅーまんず … チームの積極性で笑顔の輪を広げる

3つの“つ”

つたえる … 震災の経験と教訓を、現地の現状を
つながる … 現地の住民、学生と
つづける … 現地での活動をこれからも

私たちのボランティア活動は、今年で 8 年目となりました。
活動当初から掲げてきた活動のコンセプトが、「つたえる・つながる・つづける」の「3 つの “つ”」です。
尚絅学院大学の学生ボランティアとの活動を通じて受け継がれてきました。
これからも、このボランティアに参加する学生たちによって受け継がれていきます。

NATORI・MASHIKI×KOBE

VOLUNTEER REPORT 2018

4/28▸10/6

CONTENTS

ごあいさつ	02
活動の概要	04
丹波市スタディツアー	07
宮城県名取市での活動	08
熊本県益城町での活動	10
スタッフ・お世話になった方々からのコメント	12
学生スタッフ紹介	14
学生災害ボランティア・ネットワーク事業参加者	15

ごあいさつ

社会福祉法人　兵庫県社会福祉協議会
ひょうごボランタリープラザ
所長代理

鬼本　英太郎

今年、新たにはじめた「災害ボランティア・ネットワーク事業」では、これまでの震災被災地・被災者の現状などの事前の学習に、災害と防災など学習を加え、さらに丹波水害被災地のフィールドワークを行った上で、東日本大震災と熊本地震の被災地で活動しました。また、前年の参加学生がプログラムのコーディネート役として参画する「学生スタッフ」制を設け、２年の活動を通じ、大学や地域の防災・減災活動のキーパーソンになってもらうことをめざしました。プログラムは５月から５か月にわたりました。参加学生の皆さんの取組に心より敬意を表します。東日本大震災から７年が、熊本地震災害から２年が経過し、被災地は日々変化していますが、現地では未だ支援が求められています。また、被災地では、防災・復興の課題に留まらず、少子・高齢社会、過疎、コミュニティの脆弱化や、災害時要援護者、ひきこもり、子育て世帯、所得格差など、平時に見えにくい課題が顕在化し、支援とともに、実体験による学びが大切となります。

阪神・淡路大震災を経験した地、ひょうご神戸の学生として、被災地での活動や現地の大学生とのネットワークづくりなどを通じ、被災地の復興支援、ひょうご神戸での今後の災害に備える活動や日常のボランティア・市民活動など、さまざまなところで自分を生かしていってもらいたい。阪神・淡路大震災は、防災・減災に留まらない、広くボランティア活動の大切さを学んだ市民協働社会へのターニングポイントでした。たとえば自分たちで地域課題を解決する仕組みをつくる。多くの人との多様な出会いのなかで自分の価値観を広げ、できることからチャレンジしてみてほしいと思います。最後になりますが、学生たちを送り出していただいた大学コンソーシアム加盟大学はじめ関係者の皆さん、現地で迎えていただいた被災地の皆さんに厚くお礼を申し上げるとともに、ボランタリープラザがこのプログラムに参加する機会を得たことに感謝する次第です。

社会福祉法人 神戸市社会福祉協議会
地域支援部 部長

福井　　徹

学生ボランティア事業に対する、皆さん一人ひとりのミッションは達成されましたか？被災者支援活動に参加してみたい、ボランティア活動にふれてみたい、他大学の学生と交流したい、就活に役立つかもしれない…など、皆さんがこの事業に参加された動機・思いは様々だと思います。この数か月間の取り組みの中では、皆さんのミッション達成のために必要な「場面」や「機会」は確かに提供されたはずですから、程度の差こそあれ、当初の目的を達成されたのではないでしょうか。いっぽうで、ボランティア活動には「自発性」「社会性」「無償性」の３つの原則があると言われます。この学生ボランティア事業は学内の講義やゼミ活動とは異なり、部外の人たち、とりわけ被災者と言われる高齢者や児童と交流する機会が多く、支援者として求められる知識や技能を身につけること、実社会における責任ある行動をとることといった「社会性」を満たす行動が求められました。皆さん一人ひとりの「個人的なミッションの達成」と「社会性」を満たすこと。今後、皆さんがボランティア活動だけでなく、様々な社会活動に参加する場面ではこの２つのことがテーマにあがることと思います。今回の体験をひとつのきっかけとして、「社会性」に意識を向けながら、これからも地域活動や社会活動にぜひ積極的に関わっていただきますことを期待しています。

日本財団学生ボランティアセンター

宮腰　義仁

Gakuvo では、大学コンソーシアムひょうご神戸と、平成 27 年度から３年間、「防災・災害復興支援学生ボランティア育成事業」を連携して実施してきましたが、今年度からは「学生災害ボランティア・ネットワーク事業」を連携することとなりました。昨年度までの丹波市との繋がりが、今年度の丹波スタディーツアーとして展開しました。４月末の学生スタッフ研修では少し頼りなさげに見えた学生たちも、10 月の振り返り会では、自らの経験や展望を力強く語ってくれました。学生スタッフ以外にも、本事業に参加してきた学生は、誰しもがこれからの社会を牽引するリーダーとしての経験を積まれた事と思います。今年は、平成 30 年７月豪雨をはじめとして全国各地を様々な災害が襲いました。現在も被災後の不自由

な生活を強いられている方々がいらっしゃいます。本事業に参加した学生は、自身が出会った方々だけではなく、全国各地で課題と直面している方々にも思いを馳せることができる想像力が培われていることでしょう。本事業を通じて、社会課題を「他人事」ではなく「自分事」として捉えられたのではないでしょうか。今後もボランティアという形に限らず、人に先んじて、課題解決のために行動するイノベーターとして活動していって欲しいと願います。本事業にご協力いただいた、宮城県名取市、熊本県益城町のみなさま、関係者のみなさま、ありがとうございました。

大学コンソーシアムひょうご神戸
学生交流委員会 委員長代理
神戸親和女子大学
地域連携センター長

大島　　剛

今年は、大阪の北部、その後に北海道でも大きな地震があり、西日本豪雨、台風被害など、自然災害が嫌というほど心に刻み付けられました。今年も８月に宮城県名取市、９月に熊本県益城町を支援のために訪れました。東日本大震災から７年、コンソーシアムでは毎年ずっとバスを出し続けて、微力ながら学生の被災地支援をさせていただきました。ただ現地に行って何かのお手伝いをする、お祭りをするという支援では、「まだ行くの？」という声が返ってきそうな時期に来ています。今年度は「まだまだ必要！」なのですが、それをどう周囲にわかってもらうのかを腐心、模索をした年だったと思います。２年半しかたっていない熊本、でもまだ７年半の宮城、あっという間に23年半経ってしまった兵庫、単純とは言えない時の流れの中で、何ができて何をしていくべきかを考えて、30名の学生に「平成30年度学生災害ボランティア・ネットワーク事業」修了証書と２年目の９名の学生に「ひょうご災害・防災リーダー」認定書を渡しました。学生たちが何を学んで、何を活動し、何を考えたのかは、この報告書をご覧いただいて理解していただけると幸いです。本当の意味で学生が成長してくれていると信じています。10月８日の昼、いつもお世話になっている宮城県名取市の尚絅学院大学の学生さんたちを神戸市長田区のそばめしに連れて行ったことが、新しい一歩のような気がしました。阪神･淡路大震災から脈々と続くひょうご神戸ブランド製のネットワークの存在が、自然災害多発の今年だからこそ光ってきたように思いました。宮城、熊本、兵庫のお世話になった皆様、ありがとうございます。そしてこれからもよろしくお願いいたします。

学生スタッフ代表
兵庫大学 ３回生

森本　優太

人という生き物は悲しい事に、時代が変わり、世代が移り変わって行くことで過去の出来事の記憶は次第に色褪せ、最後には失われていってしまうものです。それが自分と関係のない事ともなれば尚更です。これはこの世の常ではありますが、忘れてはいけない、繋いでいかないといけない事は必ずあります。東日本大震災、熊本地震の教訓、想いもまたその一つです。「あの日」から月日が経った今、そのことを知り、感じることができるのは現地に赴き、色んなことを見て聴いて、知る事でしか感じ得ないと思っています。今年度参加した学生からも「自分事として考え、後世に繋いでいかないといけないと思った」、「一歩踏み出し視野が広がった」など嬉しい感想が数多く伺えました。現地の方々の想いや教訓が、後世に繋げることができ、今年度の活動も成功に終わる事が出来たと確信しています。今回の活動で繋がった想いや教訓が、これからの生活やこれから起こるであろう未曾有の大災害に生かされていく事を私は祈っていますし、今回参加してくれた学生達がそれを成し遂げてくれることを信じています。

最後になりましたが、ひょうごボランタリープラザを始めとした数多くの方々、また現地の方々の多大なるご支援、ご協力賜りました事、学生を代表して心より感謝申し上げると共に、今活動がこれからの未来を築き、想いを繋ぐ架け橋の一助となることを願い、私の挨拶の言葉と代えさせていただきます。

活動の概要

■プログラム名

平成 30 年度 学生災害ボランティア・ネットワーク事業

ボランティアの趣旨

阪神・淡路大震災を経験した地域として、学生が日常的な地域福祉や社会支援と災害時およびその後の災害支援とが連続性を持っていることを理解し、被災地での支援活動に取り組むことや復興支援の実情および今後の災害に備えた減災への取組みを学ぶことにより、日頃から主体的・自発的にボランティアや社会活動に取り組む姿勢を身につけ、被災地支援・復興支援や今後の災害に備えることを目的とする。さらに事業活動を通じて、県内の連携とともに、被災地をはじめとする各地とのネットワークを構築することを目指す。

主　催

ひょうごボランタリープラザ
神戸市社会福祉協議会
日本財団学生ボランティアセンター
大学コンソーシアムひょうご神戸 学生交流委員会

協　力

復興庁、兵庫県復興支援課、神戸市危機管理室、丹波市復興推進室、どっと．なとり、ふたば学舎、なぎさふれあいまちづくり協議会、魚崎町防災福祉コミュニティ、神戸防災技術者の会（K－TEC）、尚絅学院大学、東北学院大学、熊本学園大学、熊本県立大学

実施日

2018 年4月 28 日（土）～ 10 月6日（土）

現地活動日程

宮城県名取市　8月 25 日（土）～8月 27 日（月）2泊3日
熊本県益城町　9月7日（金）～9月 10 日（月）3泊4日
（車中2泊）

参加人数

一般学生 31 名　学生スタッフ9名　計 40 名

■活動プログラム

■学生スタッフ研修

日時：4月 28 日（土）13 時 00 分～
　　29 日（日）15 時 00 分（1泊2日）
場所：甲南大学　白川台セミナーハウス
目的：学生スタッフとしてリーダーシップを学ぶとともに、この事業への参加を通して、一市民として「他人事を自分事としてとらえ地域の課題解決に向けて取り組むことができる人材」になることを目標とし、研修プログラムを実施。
担当：ひょうごボランタリープラザ、神戸市社会福祉協議会、日本財団学生ボランティアセンター、大学コンソーシアムひょうご神戸　神戸女子大学、兵庫県立大学、神戸親和女子大学、甲南大学
講師協力：神戸市危機管理室　総務担当課長　末若 雅之 氏、復興庁ボランティア・公益的民間連携班　主査　秋田　宇慶 氏、中村　優士 氏

第1回　オリエンテーション＆第1回研修会

日時：5月 19 日（土）13 時 00 分～ 17 時 30 分
場所：ひょうごボランタリープラザ　セミナー室
（1）オリエンテーション
①事業の趣旨・スケジュールについて②スタッフ紹介
③アイスブレイク・チームミーティング
担当：大学コンソーシアムひょうご神戸
学生交流委員会　ボランティア事務局
甲南大学　地域連携センター事務室　課長　松下　賢一
学生スタッフ　兵庫大学　3年　　森本　優太
（2）第1回研修会：(講義)「災害ボランティアと被災地支援」
主担当：　ひょうごボランタリープラザ (ファシリテーター)
神戸大学ボランティアコーディネーター
東末　真紀
（1）現地のことを知ろう！東日本大震災、熊本地震災害の被災地と被災者支援
①被災地支援・災害ボランティアとは
ひょうごボランタリープラザ　所長代理　鬼本　英太郎
②熊本地震災害の現地 (益城町) の状況について
熊本学園大学　ボランティアコーディネーター
照谷　明日香 氏
③東日本大震災の現地 (名取市) の状況について
名取市サポートセンターどっと．なとり
総括　菊地　麻理子 氏
（2）グループ・ディスカッション
（3）全体発表・質疑応答

第2回　研修会

日時：5月26日（土）13時00分～17時00分
場所：兵庫県立大学　神戸防災キャンパス大会議室
内容：（1）講義とグループワーク
①講義：「『防災』と『福祉』『教育』の連携」
②グループワーク：「あなたが考える効果的なボランティア活動とは何か」
担当：大学コンソーシアムひょうご神戸　学生交流委員会
兵庫県立大学　教授　青田　良介
（2）人と防災未来センター見学
①講話（体験談）
②館内見学

第3回　研修会＆現地ヒアリングミーティング

日時：6月2日（土）13時00分～17時00分
場所：こうべ市民福祉交流センター2階　201教室
内容：（1）講義「ボランティア活動と地域活動」
神戸市社会福祉協議会　広報交流課長　唐津　史朗
（2）チームミーティング
大学コンソーシアムひょうご神戸
学生交流委員会　委員長代理
神戸親和女子大学 地域連携センター長　大島　剛
①熊本県益城町・宮城県名取市での活動について
大学コンソーシアムひょうご神戸　学生交流委員会　ボランティア事務局
甲南大学　地域連携センター事務室　課長　松下　賢一
②平成29年度のボランティア活動の様子について
③チームミーティング
［テーマ］
①6月の事前ヒアリングで現地の皆さんと協議すべき事項について
②熊本県益城町、宮城県名取市での具体的な活動内容について
司会進行：兵庫大学　3年　森本　優太

現地ヒアリング

目的：活動先となる地域の関係者や支援者に話を伺い、現地のニーズを把握してネットワーク活動の基礎材料とする。

熊本県益城町　日　時：6月16日（土）～17日（日）
訪問先：テクノ仮設団地、飯野小仮設団地、赤井仮設団地、小池島田仮設団地
宮城県名取市　日　時：6月23日（土）～24日（日）
訪問先：閖上中央第1団地、どっとなとりサロン、尚絅学院大学(百合ヶ丘キャンパス、生涯学習センター)、ゆりあげ港朝市（メイプル館）

第4回研修会（スタディーツアー）丹波水害被災地の経験から学ぶ土砂災害に対する支援と復興まちづくり

日時：6月30日（土）8時00分～18時30分
場所：丹波市内
内容：丹波市を訪問し、丹波水害被災地の見学と丹波市職員からお話を聞く（活動の詳細はP7参照）

現地ヒアリング報告会＆学生チームミーティング／学生スタッフ中間状況確認

日時：7月 7日（土）台風の影響により延期
（下記2日間に分けて開催）
現地ヒアリング報告会＆学生チームミーティング
日時：7月14日(土）13時00分～15時00分
場所：こうべ市民福祉交流センター　5階501教室
日時：7月21日（土）14時00分～17時00分
場所：甲南大学岡本キャンパス　iCommons　UnionP 2/ 3

学生チーム活動内容プレゼンテーション

日時：8月3日（金）13時00分～18時00分
場所：甲南大学岡本キャンパス　iCommons　UnionP 2/ 3
(特別講義)「被災された方と出会うこと」
大学コンソーシアムひょうご神戸
学生交流委員会　委員長代理
神戸親和女子大学 地域連携センター長　大島　剛
（学生スタッフプレゼン）：兵庫大学　3年　森本優太
（活動内容プレゼン）：各チームの企画について
（チームミーティング）：活動本番に向けての最終準備

ネットワーク活動（ボランティア活動）

1）宮城県名取市
日時：8月25日（土）～8月27日（月）2泊3日
連携先：尚絅学院大学、東北学院大学
活動先：名取市内
宿泊：東北学院大学　旅館ボラステ
内容：①連携先大学との合同研修会・交流会の実施
②連携先大学との連携プログラムの企画・実施
活動の詳細はP8～9参照

2）熊本県益城町
日時：9月7日（金）～9月10日（月）3泊4日（うち車中2泊）
連携先：熊本学園大学、熊本県立大学
活動先：仮設団地（テクノ、飯野小、赤井、小池島田）
宿泊：元気の森かじか
内容：①現地の活動取組について講話聴講
②仮設住宅での活動の企画・実施
活動の詳細はP10～11参照

振返りの会＆修了認定式

日時：10月6日（土）14時00分～17時00分
場所：甲南大学　岡本キャンパス　グローバルゾーン・ポルト（2号館1階）
内容：（1）開会挨拶
大学コンソーシアムひょうご神戸
学生交流委員会　委員長代理　神戸親和女子大学
地域連携センター長　大島　剛

（2）活動報告
①すまいりーず［名取：閖上］
②からしれんこん［益城：テクノ仮設・小池島田仮設］
③くまっしょい［益城：テクノ仮設・飯野小仮設］
④ひゅーまんず［益城：テクノ仮設・赤井仮設］

（3）尚絅学院大学チームＴＡＳＫＩ活動報告
「尚絅学院大学チームＴＡＳＫＩの東日本大震災発災から現在までの活動について」
（4）特別講義
テーマ「日本における災害リスク低減の取組みについて」
（講師）兵庫県　企画県民部　防災企画局
復興支援課長　芳永　和之 氏
（5）今後の意気込みを語ろう
（6）活動報告・今後の意気込みに対するスタッフからの講評
（7）各主催団体からのお知らせ
（8）まとめ（総括）
大学コンソーシアムひょうご神戸　学生交流委員会委員
神戸女子大学　教授　大西　雅裕
（9）閉会挨拶
ひょうごボランタリープラザ　所長代理　鬼本　英太郎

丹波スタディーツアー

目的 丹波の水害被災地の経験から学ぶ。土砂災害に対する支援と復興のまちづくりを聞き、これからの防災、減災につなげる。

丹波市復興推進室 講演テーマ
「丹波市豪雨水害による被害・そこからの復旧、復興の現在まで。」

2014 年 8 月 15 日～ 18 日にかけて、北播磨・丹波を中心に多いところで 1 時間に約 100mm の大雨となり、丹波市では人的被害が 5 件・住家被害が 1,023 件にも及ぶ被害が出ました。2017 年末時点で 98%復旧完了となり、現在は次の災害のための対策もされています。

日　時：2018 年 6 月 30 日（土）

行　程：研修会①丹波市役所講演、丹波市紹介 PV 鑑賞
↓
研修会②現地視察
↓
↓ 八日市橋→前山小学校（避難所）→谷上（災害）集落→復興砂防公園の現地確認
↓
研修会③現地交流
↓
↓ グループ行動：アジサイ農園視察、こんちゃん農園にて収穫作業、交流しながらの昼食準備
↓
昼食 ひなたぼっこカフェにて昼食を交えた交流会
↓
↓
研修会④森林学習
雨天のため室内学習、木工作業体験など

みんなの学び

復興砂防公園等見学（現地視察）

「異常気象が当たり前になったという意識を持つことが大事」実際に被害に遭った方がおっしゃる言葉の重みを感じ、現地を見たからこそ常日頃からの備えの大切さを学びました。

農の再生プロジェクト（あじさい栽培）

耕作放棄地の問題に取り組むプロジェクトの一環であり、田んぼ横での栽培の難しさやこれまでの苦労などをお聞きすることができました。アジサイには丹波市の復興への願いが込められており、町のシンボルのように感じました。

ひなたぼっこカフェ

現地の方の元気と笑顔はもちろん、おいしいカレーやお餅を一緒に作って食べて、心も胃袋も掴まれました！現地の方には感謝の気持ちでいっぱいです。

森林学習

山本来の強さを生み出すために、間伐を行うなど災害に強い山に変えようという取り組みが行われています。例えば、葉の面積が大きく、地中に根を広く張る広葉樹を植え付けることなどです。葉が地面に落ちることで、土にとっては肥料となり、動物にとっては餌になります。また保水力も高まります。間伐により、適度なスペースを与えることで、山や木にとって適切な環境になることを学びました。

宮城県名取市での活動

住民顔合わせ交流会

日　時：８月２５日（土）１０時００分～１２時００分
場　所：閖上復興公営住宅
人　数：兵庫の学生１１人、尚絅学院の学生１０人
趣　旨：初めての住民主体の顔合わせ会に参加し、交流を図り、今後住民の方々が集まろうと思えるようなきっかけを作る。
活動詳細：近隣にお住いの方々への呼び込み、かき氷、お菓子を食べながらの茶話会

成果と課題
天候も良く気温が高かった為、かき氷が大変盛況でした。茶話会を行いながら地域力が強い閖上の住民の方から沢山のエピソードなどを聞きましたが、違うテーブルに座っている方とは顔と名前がうっすら一致する程度であること、震災前と同じ町に住んでいた方同士話しやすいと伺いました。知っている人がいないと集会所になかなか足がむかないと伺い、今後は集会所で新しいコミュニティ作りに私たち学生が寄り添う必要があると思いました。

感　想
住民の方々は私たちをまるで孫との再会のように暖かく迎えてくださいました。他愛もない世間話をしながら、一緒にかき氷を食べ、楽しい時間を過ごす事ができました。その中で震災の事について伺う事もできました。ある方のお話では友人が目の前で津波に流されてしまった時の悔しさについて涙を流しながらお話して頂きました。しかしその方はその後に「どれだけ辛い思いをしても、友人を失くしたとしても、東北が好きだ。閖上は世界一良い町だ。」と何度も仰っていました。この言葉がどれ程深い意味を持ち、どれ程閖上への愛を表しているのか、想像しただけでも涙が溢れそうになりました。

今昔語りっぺ

日　時：８月２７日（月）　９時００分～１６時００分
場　所：閖上中央第一団地Ｃ棟集会所
人　数：兵庫の学生１１人、尚絅学院大学６人
趣　旨：サロン活動をしているどっとなとりの活動に入らせていただき、「寄り添い」というのはどのようなものか、自立する支援とはどのようなものなのかを学ぶ。
活動詳細：閖上中央第一団地で活動しているどっとなとりのサロン活動に参加させていただき住民の皆さんと郷土料理「おくずがけ」を料理し、一緒に食べお話しを伺った。

成果と課題
どっとなとりのサロン活動への参加は、「寄り添いとは」について考える機会となりました。今までは、私たちが考えた活動内容で住民の方々と交流を行ってきましたが、そのことは現在のニーズや私たちにできる支援の在り方も変化していることを感じました。今後、多くの人に伝えるべきではないかと思います。

感　想
住民さんと初めてお話した時、人と話すのが苦手なので相槌しかできませんでしたが、住民の方が「ボランティアに来てくれてありがとう」と言ってくれた言葉がとても嬉しかったです。私にも出来る事があるんだと気づきました。テレビ等ではわからない貴重なお話を直接聞くことが出来ました。

兵庫・宮城学生ボランティア研修交流プログラム

日　時：８月２６日（日）　１０時００分～１７時００分
場　所：尚絅学院大学　百合ヶ丘キャンパス
人　数：兵庫の学生１１人、尚絅学院大学８人
プログラム
１．講演会「名取市における復興・再生への歩みについて」
名取市震災復興部 復興計画課 班長　佐藤　浩様
２．「阪神・淡路大震災、東日本大震災からの教訓について」
ひょうごボランタリープラザ 所長代理 鬼本　英太郎
３．「東日本大震災からこれまでのボランティア活動について」
尚絅学院大学 チーム TASKI
４．ワークショップ　テーマ１「閖上について考える」
テーマ２「これから学生ができること」
５．尚絅学院大学神戸プログラム（10/ 7~8）企画プレゼンテーション
大学コンソーシアムひょうご神戸 すまいりーず

成果と課題
活動２日目の兵庫・宮城研修・交流プログラムでは、名取市役所震災復興部の方をお招きし、名取市の復興の現状と課題について伺い、初日の活動で住民の方々からのお話から伺った疑問点についてもお聞きしました。そのお話から行政が出来ることと自分たちでしなければいけないことがある事を知るとともに、自分たちで地域を盛り上げることも大事であること、そのためにも人間関係や自分たちで地域を作っていく気持ちも必要であることを学びました。また尚絅学院大学の学生の皆さんと「学生が今被災地にできること」を話し合うワークショップも行い、現地に行かずとも募金やふるさと納税など、日常生活の中でできる支援もあることを学びました。現地で活動している大学生といろいろな視点から議論し交流することができ、有意義なプログラムとなりました。

長沼さんの講話

日　時：８月２５日（土）１３時００分～１６時００分
場　所：閖上日和山周辺
人　数：兵庫の学生１１人、尚絅学院大学の学生１０人
趣　旨：震災が起こった時に何があったのかを実際に被災地に立ち、当時を知る長沼さんから被災した閖上、ふるさとである閖上についてお話を伺う。
活動詳細：閖上日和山、慰霊碑周辺を散策、長沼さんの講話。

感　想
長沼さんの説明と一緒に閖上の町を散策すると、当時の震災の破壊力を痛感しました。特に印象に残っているのは「教訓」という言葉です。教訓はただ受け取るだけでは意味がなく、自分事として受け取め、初めて教訓として活きてくるということが分かりました。今回訪れた日和山の裏側に倒れている石碑があり、昭和８年に起こった地震での津波から、先人たちが後世への警告と教訓のため建てたものと考えられるとのことでした。しかし、津波警報が発表されてもなかなか避難できなかった実態もあります。このような現実に触れ非常にやるせない気持ちになりました。

櫻井さんの講話

日　時：８月２６日（土）８時５０分～９時２０分
場　所：閖上港朝市メイプル館
人　数：兵庫の学生１１人
趣　旨：閖上港朝市共同組合の櫻井代表理事から震災発生時、津波到達時の映像とともにお話を伺う。
活動詳細：櫻井代表理事による震災時の閖上についての講話。

感　想
櫻井さんのお話しからどれだけ生きたいと願い大災害に抗おうとも、人間は無力で何もする事が出来ないという事を改めて学びました。「津波は逃げるしかない」こう語る櫻井さんの表情、口調がお話しの重みを更に重く、深くし、私たちの胸に深く刻み込まれていきました。櫻井さんの話をお聴きして、二度と同じ事を繰り返してはいけない、そう思った時、これが「教訓を繋ぐ」ということなんだと思いました。大災害を体験した事のない方々に当時の事や、災害時の正しい知識を学び、この大災害を風化させない事が「教訓を繋ぐ」事だと思いました。

尚絅学院大学神戸プログラム

１日目

日　時：１０月７日（日）　９時００分～１８時００分
場　所：人と防災未来センター、HAT 神戸、
なぎさふれあいのまちづくり協議会、魚崎町防災福祉コミュニティ
人　数：兵庫の学生６人、尚絅学院大学１０人
趣　旨：宮城の学生他に神戸で、阪神・淡路大震災の教訓やその後の復興やまちづくりについて学んでもらい、今後の宮城での活動に繋げてもらう。
プログラム
１．人と未来防災センター
・語り部のお話し
・シアター見学
・展示見学
２．HAT 神戸見学
・なぎさふれあいまちづくり協議会 門脇委員長講話
・魚崎町防災福祉コミュニティ 清原会長、明珍副会長、石端副会長講話

2日目

日　時：１０月８日（月）　９時００分～１６時３０分
場　所：ふたば学舎 (新長田)、神戸ハーバーランド、メリケンパーク
人　数：兵庫の学生４人、尚絅学院大学１０人
プログラム
１．ふたば学舎（新長田）
・長田の震災を学ぶ
・長田のまちを歩く
２・震災遺構フィールドワーク
・震災メモリアルパーク（メリケンパーク）
・東遊園地
・神戸市役所展望ロビー等

感　想
阪神・淡路大震災発災時から復興まちづくりに至るまでの様々な課題について、人と防災未来センター、ＨＡＴなぎさふれあいまちづくり協議会、魚崎町防災福祉コミュニティ、長田の商店街等の関係者にお話を伺ったり、神戸に残る震災遺構をめぐるツアーにも参加するなど、阪神淡路大震災からの教訓について学ぶ貴重な機会になりました。伺ったお話は現在の名取市に生かせるものや今後の南海トラフ地震に備えるべきことなど、宮城、兵庫の学生ともに有意義な内容でした。他人事を自分事として置き換え、今後に生かしていくことが必要だと思いました。

熊本県益城町での活動

テクノ仮設団地での研修会

日　時：9月8日（土）9時00分～１１時30分
場　所：テクノ仮設団地 みんなの家・集会所Ｆ
テーマ
①益城町の震災からの復興、そして災害に備える地域の取組全般（住民が主役のコミュニティ形成）
テクノ仮設団地自治会長 吉村　静代氏
②被災地での学生支援の取組
ア　KASEI プロジェクト
熊本県立大学 環境共生学部 居住環境学科 准教授 佐藤　哲氏
イ　おひさまカフェ活動
熊本学園大学 ボランティアコーディネーター 照谷　明日香氏

成果と課題
事前講義でもあったが、改めて吉村会長から震災の復興状況、直後の避難所も含めた取組をお聞きした。避難所では皆がストレスを抱えるなか、住民同士の係わり合いが生きる活力を与える。被災者同士の助け合いの大切さを学んだ。また、KASEI プロジェクトやおひさまカフェ活動を指導する佐藤先生や照谷先生から地元学生の活動をお聞きし、仮設住宅に現地学生がかかわり、住民と交流が生まれていることを学んだ。

感　想
研修会では住民の「生活」について学びました。「いつまでもお客さんであってはいけない」という言葉が印象的でした。その言葉通り、避難所では、子どもからお年寄りまで全員が参加し、ルールを決めたり、ダンボールベッドを作成したり、コミュニティカフェを作り、互いがコミュニケーションをはかり、痛みを共有するなど、被災したという現状を自らの力で明るいものに変えようとされる生の強さを感じました。また仮設住宅の模型も見せていただきましたが、想像よりもはるかに狭く、生活のしづらさなどから、多くの悩みを抱えながら生活されていることが理解できました。しかし私たちが知っているのは仮設の皆さんの笑顔の姿だけ。笑顔の裏にある、皆さんの努力と苦労とその逞しさを知り、今、私たちができることは何なのかを深く考えさせられました。

テクノ仮設団地で各チーム活動

日　時：9月8日（土）13時00分～17時00分
場　所：テクノ仮設団地 みんなの家・集会所Ｆ

チーム　からしれんこん

人　数：兵庫の学生９人
趣　旨：子供たちと遊びプログラムで交流し、体を動かして遊ぶことで楽しんでもらう。
活動詳細：子供たち向けのプログラムをみんなの家で行う。その呼び込みを行う中で住民の方々と交流する。

成果と課題
積極的に行動することが苦手な学生も多く、プログラムの準備や子供たちと遊ぶ活動に対して主体的に動ける学生が少なかったです。そのため、当日の反省会では全員の反省点としてこの点を挙げ、翌日の課題としました。

感　想
「ありがとう」の言葉を沢山の方々からいただきました。呼び込みの最中には、住民の方から、畑でとれた野菜をいただいたり、初めて出会った私たちにたくさんの笑顔をいただきました。しかし、私たちはその「ありがとう」に本当に応えられているのかなと疑問に残る活動となってしまいました。

チーム　くまっしょい

人　数：兵庫の学生８人
趣　旨：シャーベット作りを通して住民さんとのコミュニケーションを図る。
活動詳細：兵庫のお菓子で茶話会や、シャーベット作りを通して住民の方と交流する。

成果と課題
たくさんの方に集まっていただき、住民の方同士の交流する場面も多く見ることができました。そして、子どもからお年寄りまで様々な世代の方が来てくださり、「楽しかった」「また来てね」と笑顔で言っていただきました。課題としては、予想以上にたくさんの方に来ていただいたので、椅子や、お菓子、飲み物が足りなくなってしまった事です。学生の役割分担ももう少し明確にして活動するべきでした。

感　想
あいにくの雨ということもあり、住民さんに来ていただくための挨拶回りはとても緊張しましたが、徐々にみなさんが訪問してくださって部屋が人でいっぱいになっていき、小学生から高齢の方まで様々な世代の方が１つのテーブルを囲んで和やかに楽しんでくださっている光景を見ると、やって良かったと心から思いました。また住民さん同士がご友人を誘ってきてくれたり、お土産に手摘みのブルーベリーをくださったり、積極的な方が多く、活気があふれる空間になりました。

チーム　ひゅーまんず

人　数：兵庫の学生 10 人
趣　旨：住民の皆さんと“おもいっきり”交流することで、コミュニケーションを図る。
活動詳細：みんなの家で、子供たちを中心に、ふうせんバレー・じゃんけん列車・ジェスチャーゲーム・もうじゅう狩り・トランプなど多くの遊びプログラムを行う。

成果と課題
広場で活動する予定でしたが、雨天で急遽室内での活動に変更となりました。しかし、たくさんの方々と関わることができました。特に子どもが多く、一人一人としっかり向き合いながら遊ぶことができました。残念だっとことは、移動バス内に事前に購入しておいた、活動で使用するジュースやお菓子を置き忘れてしまったことです。近くにスーパーがあったので、買い直すことができましたが、確認はしっかり行うべきでした。

感　想
企画したプログラムを通してたくさんの話を聞けたり、子どもたちの笑顔や楽しそうな姿をたくさん見ることができました。今自分たちができること、しなければならないことを学ぶことができました。そして、学んだことをたくさんの人に伝えていきたいです。

小池島田仮設団地　チーム　からしれんこん

日　時：9月9日(日)9時00分～17時00分
人　数：兵庫の学生9人
趣　旨：換気扇掃除やうどん作りを、コミュニケーションを楽しみながら行うことで住民の方々の息抜きにつなげる。
活動詳細：［午前］換気扇掃除・うどん作りの仕込み。
［午後］うどんやシャーベットを一緒につくりみんなで食べる。うちわ作りを行う。

成果と課題
チーム目標である「笑顔で笑顔に」という言葉を全員が大切にしながら行動することができました。うどん作りも、住民の方に助けられながら一緒に作り、多くの皆さんに楽しんでもらうことができました。また、自分がすべきことは何なのかを常に考えながら行動することの大切さに気付きました。

感　想
現地の方のお話で、「熊本を忘れないで」という言葉がありました。私たちは、この言葉こそがボランティアの真髄であると認識しました。たくさんの方々と交流をしている中で本当に素敵な笑顔を沢山いただきました。熊本ではまだまだ多くの助けを必要としていることを知り、からしれんこん一同は消極的ではありながらも視野を広げることや積極的に取り組むことの大切さなどを学び、少しですが成長できたと思います。

飯野小仮設団地　チーム　くまっしょい

日　時：9月9日(日)9時00分～17時00分
人　数：兵庫の学生8人
趣　旨：焼きそばを一緒に作ることで住民さんと交流をはかり、また住民さん同士の交流のきっかけの場を作る。
活動詳細：[午前] 焼きそば作りと茶話会を行う。
[午後] フォトフレーム作り、かき氷作りを行う。

成果と課題
焼きそば作りでは準備から皆さんと行うことでコミュニケーションのツールとなりました。茶話会では神戸からのお菓子を持参し、お話しのきっかけにもなりました。かき氷作りは自治会長さんにご要望いただいたこともあり、好評でした。フォトフレーム作りでは装飾のアイデアを出し合ったり、描いた絵を褒めあったり、和気藹々と活動できました。成果としては、周りを見て臨機応変に動けていた、役割分担が出来ていたことなどがあげられます。課題は、お皿やコップ、装飾品やハサミなど資材の数が足りなかったこと、タイムスケジュールの説明不足があげられます。

感　想
前日の活動で役割分担が出来ていなかったという反省点を意識し、全員が改善に向け取り組めたと思います。2日目も天候が悪かったのですが、住民さん同士の呼びかけにより沢山の人が集まってくださいました。最初は焼きそば作りに消極的だった方も、少しずつ話に入ってくださるようになり、最後は住民さんの提案で学生、住民さん混合で腕相撲大会をするまでに仲良くなりました。フォトフレーム作りも盛り上がり、「あなた達が来てくれてよかった」と声をかけてくださった時はなによりも嬉しかったです。

赤井仮設団地　チーム　ひゅーまんず

日　時：9月9日(日)9時00分～17時00分
人　数：兵庫の学生10人
趣　旨：住民の人と共に作業して交流し、仮設団地での思い出を作る。
活動詳細：［午前］たこやき作り（現地の人と一緒に作りながらコミュニケーションをとる）を行う。
［午後］写真立て作りと合唱、茶話会（すごろくトーキング・ジェスチャーゲーム）を行う。

成果と課題
前日の反省会をしっかりと活かすことのできた活動となりました。特に呼び込み・コミュニケーションの点においては、それぞれが自分の役割に沿って動いており、現地の人、一人ひとりと向き合って接することができました。課題は、資材の追加調達のため、一部の班員があまり交流に参加できなかったことです。事前に綿密さをもって準備を行っておくべきでした。現地の方が震災の話をされる際に、受け身になることが多かったので、知識をしっかり身につけ、現地の方から得られる学びをもっと深める必要があると感じました。

感　想
たこ焼き作りは現地の人と食文化を知るきっかけとなり、それがまたコミュニケーションのきっかけにもなりました。そして、写真立て作りや茶話会で、より内容の濃いお話しをお聞きすることができました。チームそれぞれの行動が現地の人との交流や笑顔になり、その笑顔が私たちの笑顔につながったのではないかと感じました。今回の活動では一瞬ではありましたが、私たちが願う「日常」を共有させていただくことができたと思います。私たち学生が、「災害」という単語から多岐に渡り学んだことを伝える大切さを知り、それを行動につなげたいと思う貴重な機会となりました。

スタッフ・お世話になった方々からのコメント

ひょうごボランタリープラザ　主事
佐藤　哲也

今回の活動を通して、私が皆さんにお伝えしたいことは、学生時代の限られた時間を自己成長のために活用して欲しいということです。学生時代は時間があります。自己分析をして、自分ができることとできないことを認識するのはとても重要です。その上で、新しいことにどんどん挑戦してください。そのひとつのツールがボランティア活動だと私は思います。若い力は無限に可能性を秘めています。皆さんの更なる成長を期待しています。

神戸市社会福祉協議会　地域支援部　広報交流課　課長
唐津　史朗

熊本へ同行させていただきましたが、雨が降りしきる中でもたくさんの住民の方が「みんなの家」に集まってくださり、私たちと親しく交流をして頂けたことはとても幸いなことでした。

みなさんは、多くの場面で「平時のつながりが被災時に生きる」ことを学ばれました。これから生活する上で、様々な「つながり」を大切に、被災時にも強い社会づくりに参加してほしいと願っています。

神戸市社会福祉協議会　地域支援部　広報交流課　主事
高石　憲志郎

およそ５か月間のプログラムを経て、みなさんは「たくさんの学び」と「代えがたい体験」を得ることができたことと思います。ボランティアは決して特別なことではなく、一歩踏み出すことで誰もが担い手となることができる活動です。みなさんが得たもの、感じた想いを胸に、更にもう一歩大きく踏み出してくださることを期待しています。

甲南大学　地域連携センター　参与
久保　はるか

いつも学生たちとともに貴重な経験と勉強をさせていただいています。今回は、居住開始からまだ１年ほどの閖上地区の、コミュニティ・まちを作っていく途上にある現状を知る貴重な機会となりました。復興地区にお住いの方々に、暮らしの現状や震災前の閖上地区の風景、これからの展望などについて率直に語っていただきました。また、復興集合住宅で高齢者支援を続けている支援団体からも現状と課題について教えていただきましたし、行政の方にもお話を伺えたことで、学生たちも考えが深まったことと思います。これからも、今の段階において現地が必要としているボランティアはどのようなものか、「復興」とは何かを、学生たちとともに考えたいと思います。

神戸女子大学　文学部　教授
大西　雅裕

今回の活動では、テーマであった「笑顔を届ける」は概ねできたかと思います。しかし仮設住宅の方々の生活課題は山積しています。その諸課題に対して、我々は、どんな支援活動ができるかを考えなければなりません。その一つに「他人事から自分事へ」とパラダイム展開をし、今後も継続的に活動することでも深まると私は考えます。期待しています。

兵庫県立大学　減災復興政策研究科　教授
青田　良介

災害ボランティアを行う上で、次の３点を意識してもらいたいです。１点目は「主体的に動くこと」です。自分の意思で責任を持って奉仕するという意味合いが込められています。２点目は「被災者に寄り添うこと」です。主役は自分でなく被災者にあることを認識し、被災者を置き去りにしない姿勢が重要です。３点目は「被災地から学ばせていただくこと」です。先の２つを実行することで、知らぬ間に成長した自分に気づくと思います。

甲南大学　地域連携センター事務室　課長
松下　賢一

今年、参加した学生の皆さん、約５ヶ月間の活動、お疲れ様でした。名取市、益城町でのそれぞれの活動に参加したからこそ、得られたものがたくさんあったと思います。この経験を糧に他人事を自分の事として考え、行動に移せる人になって欲しいと思います。これからの皆さんの活躍を期待しています。

大学コンソーシアムひょうご神戸　事務局
山路　裕美子

約半年間という長期の活動でしたが、本当にお疲れ様でした。研修から現地活動、報告会までとても大変だったと思います。しかし、学生時代だからこそできる貴重な経験であり、多くことを学べたのではないでしょうか。今回の活動を通して、皆さんが感じた想いを伝え続けていってほしいと思います。また、皆さんの今後の学生生活、社会人生活での活躍を期待しています。

名取市サポートセンター どっと . なとり　総括
菊地　麻里子

東日本大震災から８年目の歩みを続けている大切な年に、今年も学生災害ボランティアのみなさんのご支援で、名取に笑顔の花が咲きました。ありがとうございます。寄り添うこと、目に見えないつながりを丁寧に紡いでいくこと、想いを実現化すること東北でのボランティア活動を通して学んだ知恵と経験を一過性のものとするのではなく、「希望の光」となって未来へつなぐことができる人材になれることを願っています。

尚絅学院大学　連携交流課　課長
佐々木　真理

阪神・淡路大震災から 23 年、東日本大震災から７年以上の月日が経ちました。学生の皆さんは、あの日に何が起こったかを学び直し、その後の復興の経過や課題を知り、それを“自分ごと”としてたくさん考え、悩まれたことと思います。遠く離れた兵庫と宮城の学生が、共に被災地の今の課題に取り組んだことで得られた気づきや心の成長を、これからの新しい“実践”の場で活かしてほしいと思います。ありがとうございました。

尚絅学院大学　総合人間科学部　人間心理学科４年
伊藤　ちひろ

今回の活動は、TASKI でもまだない閖上復興公営集合住宅集会所でのイベントなど、仮設住宅とは全く違った環境での活動であり、住民さんの「自立」を「支える」ことを意識した活動を行うことができました。震災から７年半。被災地で新たなまちづくりが進められている今、私たち「若者」に求められることは、震災を伝え続けることだけではなく、「被災地」と言われるようになってしまった地域の「これから」を盛り上げることだと思います。

熊本学園大学　ボランティアセンター
ボランティア・コーディネーター
照谷　明日香

明るく、人懐っこい神戸の学生さんがうどんやたこ焼きなど茶目っ気たっぷりな手作り料理を仮設の住民さんと一緒に楽しまれ、私たちも素敵な交流会を過ごすことができました。ありがとうございます。被災された方の歩むスピードには、大きな違いがあり、多様性を理解することも重要です。一人ひとりの方と接した時間を大切にし、これからもボランティア活動を楽しく、時には真剣に振り返り、多くのことを学んでください。

学生スタッフ

～9人の愉快な仲間たち～

教えて！ ★学生スタッフに参加したきっかけ
☆何かひとこと

森本　優太

兵庫大学
3回生

★去年この活動に一般学生で参加して、参加してよかったと思った。今年はそう思わせる立場になりたいと思ったから！

☆去年とは違う視点で活動できて成長できた！！成長したいそこの君！学スタに挑戦してみない？

阿久澤 章大

流通科学大学
3回生

★この活動は3年目で、宮城で様々な経験をしました。その経験を活かしてこの活動で新しい参加学生を引っ張り、学生の気づきを最大限に引き出し次に繋げて欲しいと思い昨年度から学生スタッフとして活動しています。

☆この活動で、気づくことは多くあると思います。そして、学生スタッフになることで見えることも変わると思います。その気づきを大切にして欲しいと思います。

西野　友香

甲南大学
4回生

★前回、学生スタッフをして、学ぶことがたくさんあったので、また学生スタッフとしてこの活動に関わりたいと思いました。就職活動中でしたが、2回生から続けてきたボランティアを最後までやり遂げたいという思いが強かったからです。

☆私は、約3年間この事業に参加させて頂きました。被災地について学び、現地に赴き、多くの方々と繋がることができました。また、学生ボランティアから学生スタッフへとステップアップし、自分自身の成長も実感することができました。今後もこの経験を生かしていきます。ありがとうございました。

下村　衿加

神戸海星女子学院大学
3回生

★昨年自分自身が学んだ事、感じた事をみんなに伝えたいと思ったから。

☆全体目標でもある"1歩踏み出す"ボランティア以外でも上記の言葉を大切にしていきたいと思います。またボランティア学生、学生スタッフ、影で支えて下さった大人の方、ボランティアに関わって頂いた全ての方にお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

中野　亜耶

甲南大学
3回生

★昨年はこの活動に一般学生として参加しました。その時に、ボランティア活動は"楽しい"と実感しました。しかし、楽しいという思いだけで終わらせたくない。もっと深くたくさんのことを感じたい！と思い、学生スタッフになりました。

☆大学生活で何かしたいと思っている方、ぜひ参加してみてください。きっとかけがえのない何かに出会えるはずです。

田渕　日和

神戸松蔭女子学院大学
2回生

★昨年度の活動に参加し、とても楽しかったので今年は学スタとして参加しようと思いました。

☆昨年とは違った達成感があり、充実した活動ができました。ありがとうございました！

古市 こころ

兵庫教育大学
3回生

★災害ボランティアの良さをいろんな人に知ってもらいたいと思ったため。

☆この活動でたくさんの出会いと学びを得られました。ありがとうございました。現地の人はまだまだ支援を必要としています。ぜひ一歩踏み出してみてください。

江野　七海

神戸女子大学
2回生

★昨年度の活動に参加した際、次に参加するときは学生スタッフとして活動し、立場が変わることで昨年とは違うものを得たいと感じたからです。

☆多くのことを得た活動になりました。学んだことを日々の生活に活かしていきたいと思います。ありがとうございました。

小畑 保奈美

神戸親和女子大学
4回生

★昨年学生スタッフを経験したことから、他の学生スタッフの補助を行い、昨年の反省を活かしてより良いものにしたいと思ったから。

☆知らないことを、知りたい、少し知っていることを、もっと深く知りたい。もっと携わりたい。私はこのような気持ちで被災地ボランティアを2年間続けてきました。被災地の現状を始め、人とのかかわり方も学ぶことができた活動でした。今回学んだことを、身近な誰かに伝え続けていきたいと思います。この活動を支えさせて頂けたことに深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

ひょうごボランタリープラザ・神戸市社会福祉協議会・日本財団学生ボランティアセンター・大学コンソーシアムひょうご神戸共催

平成 30 年度　学生災害ボランティア・ネットワーク事業 学生チーム

熊本県益城町での活動チーム

チーム名	氏　名	学校名	学年
からしれんこん	＊西野　友香	甲南大学	4
	＊下村　衿加	神戸海星女子学院大学	3
	大塚　友恵	甲南大学	3
	川崎　寿優	関西学院大学	3
	秋山　聡汰	流通科学大学	2
	小林　歩乃佳	関西学院大学	2
	藤﨑　美夕樹	流通科学大学	2
	松井　未季	関西学院大学	2
	中島　穂香	神戸女子大学	1
	西野　双葉	神戸常盤大学	1
くまっしょい	＊中野　亜耶	甲南大学	3
	＊田渕　日和	神戸松蔭女子学院大学	2
	大谷　菜緒	神戸常盤大学	3
	土居　大輝	神戸学院大学	3
	木下　拳史	関西学院大学	2
	竹友　千晶	甲南大学	2
	堀内　歩実	関西学院大学	2
	三鍋　佑奈	神戸女子大学	1
ひゅーまんず	＊古市　こころ	兵庫教育大学	3
	＊江野　七海	神戸女子大学	2
	高橋　宏知	神戸市外国語大学	4
	南田　葵	神戸常盤大学	3
	家木　瑠璃	甲南大学	2
	奥山　葵	関西学院大学	2
	小山　千春	神戸親和女子大学	2
	平井　亮太	関西学院大学	2
	高村　歩未	神戸女子大学	1
	星野　朱音	神戸常盤大学	1
	＊小畑　保奈美	神戸親和女子大学	4

＊は学生スタッフ

宮城県名取市での活動チーム

チーム名	氏　名	学校名	学年
すまいりーず	＊森本　優太	兵庫大学	3
	＊阿久澤　章大	流通科学大学	3
	上野　稜	神戸市外国語大学	3
	上利　侑也	流通科学大学	3
	遠藤　菜々子	神戸学院大学	2
	片山　七海	関西学院大学	2
	新保　ひかり	神戸常盤大学	2
	長尾　萌奈	関西学院大学	2
	寄光　里輝哉	神戸学院大学	2
	中野　実菜	神戸女子大学	1
	美馬　直	甲南大学	1

共催団体スタッフ一覧

●ひょうごボランタリープラザ
所長代理　鬼本　英太郎
事務局長　柳瀬　長明
事務局次長　松原　富美子
主事　佐藤　哲也

●神戸市社会福祉協議会
地域支援部長　福井　徹
広報交流課長　唐津　史朗
主事　高石　憲志郎

●日本財団学生ボランティアセンター　宮腰　義仁

●大学コンソーシアムひょうご神戸
学生交流委員会
・委員長校　神戸親和女子大学　地域連携センター長　大島　剛 (委員長代理)
・副委員長校　甲南大学　地域連携センター　参与　久保　はるか (副委員長代理)
地域連携センター事務室　課長　松下　賢一(ボランティア事務局)
村田　暁

・ボランティアユニット校
神戸女子大学　文学部　教授　大西　雅裕 (学生交流委員)
兵庫県立大学　減災復興政策研究科　教授　青田 良介
神戸大学　ボランティアコーディネーター　東末　真紀
関西学院大学　研究推進社会連携機構 社会連携センター　谷口 雄亮

大学コンソーシアムひょうご神戸　事務局　山路　裕美子　　計 17 名

NATORI・MASHIKI×KOBE

VOLUNTEER REPORT 2018

平成30年度　学生災害ボランティア・ネットワーク事業 報告書

本活動は、兵庫県「平成30年度 復興サポート事業」
「ひょうご東日本大震災被災地『絆』ボランティア活動支援事業」の助成を受けて実施しております。

発行日：2019年1月　　発行：ひょうごボランタリープラザ・神戸市社会福祉協議会・日本財団学生ボランティアセンター・大学コンソーシアムひょうご神戸
印刷：イワサキ出版印刷有限会社